FD シンポジウム報告

令和元年度　「国大協保険に関する勉強会−教育研究の推進とリスクマネジメント−」を聴いて

理科教育講座（生物）・中村 依子

１．概要

国立大学法人総合損害保険は，平成 16 年 4 月の国立大学の法人化に対応すべく，国立大学協会において，各大学からのアンケートによる要望を踏まえ，文部科学省，有識者の意見も伺いながら開発した保険で，国立大学法人のリスクに対応する各種の保険を一つにまとめた他に例をみないユニークな保険であり，保険手配の効率化と低廉な保険料を実現している。FD シンポジウムでは，国大協サービスの事業部長の藤井昌雄様から，国立大学に関連する保険制度，保険適用の要点と事例紹介，教育研究の推進とリスクマネジメントについて講演があった。

２．総括

今日，大学生が大学で活動するにあたり，大学がしっかり安全管理をしていないと賠償責任が生じる時代である。私が担当する理科は教科の性質上，実験・実習が多い。時には野外で実習を行うこともあり，安全管理は必須である。大学外で行われる科学イベント等でも，必ず実行委員長が「安全第一で」「安全が確保されて初めてイベントが楽しいものになる」と注意喚起する。

私自身は，安全衛生管理に人一倍気を使っていると思っている。この FD シンポジウムに参加する前も，学生と一緒に野外に行く実習があった。普段，一緒に実習を担当している教員から急に参加できないと伝えられ，野外実習であり 1 人で学生を野外に連れて行くのは危険なので，代理を立てて欲しいと伝えたが，代理を立てていただけなかった。大学のすぐそばでの野外実習ではあったが，学生の安全に関わることなので，あまり関係のない他の教員に自分で引率をお願いした。頼まれた教員も，野外に行く際には複数の教員で引率しなければならないのか？と腑に落ちない様子であったが，複数の教員で引率して自然観察を行なった。山登り等，自然に囲まれた環境で実習を行う際にも，山登りのベテランの方を一緒に引率していただくなど，学生の安全確保には気を付けている。今回の FD シンポジウムに参加して，野外実習・調査中の事故の事例の中に，引率教員が 1 人であったことが問題点の 1 つとして挙げられていた。これまでどんな野外実習も必ず複数の教員で引率してきて良かったと思った。

また，今回の FD シンポジウムを聴いて，学生が加入する学生教育研究災害傷害保険（学研災）や大学が加入している損害・傷害保険で教員のリスクが軽減されるということを知り，少し安堵した。特に学生が必ず入る学研災のような格安のレートの保険は他にはないそうで，経済的負担が少なく学生が安心して学び生活できる保険制度があることは有り難いと思った。ただし，留学生の場合は，日本の学生とは異なり，学研災付帯学生生活総合保険に入る必要があるということなので，もし，自分が留学生を受け持つ機会を持つことがあれば気を付けようと思う。

リスクマネジメントとは，被害者も加害者も出さないという意識で，組織ではなく「人」を守るということを聴き，安全管理を徹底するのは学生を守るためだと思っていたことは正しかったと思えた。講演者が，学んだ本の中の「怠惰な大学教員を野放しにしてきた教授会自治の時代は終わったかもしれないが，「知の共同体」としての大学の必要性は終わらない。あらためて，新しい自治の可能性を考え，実践していかなければならない」という一節が印象に残っていると紹介していた。私も大学が「知の共同体」とすることに大変共感し，大学が「知の共同体」として社会に貢献すべく，日々教育や研究に励みたいと思う。